実録ドキュメント「花飯輪も愛でる花見交流会 2008」

（2008 年花見交流会レポート）

親睦委員会
副委員長　岡部隆男

さる、4 月５日（土）に日本コーチ協会熊本支部の花見交流会がありました。
タイトルは昨年のを引き継ぎ「花飯輪（かいわ）も愛でる花見交流会 2008」であります。

場所は熊本市中心部の「上通り」にある「さくらさくら」という結婚式の 2 次会にもよく使用される、おしゃれでシックなカフェ＆レストランでありました。時間は 19 時からの 2 時間飲み放題で参加者は支部運営委員 13 名、一般参加者 22 名の総勢 35 名とあいなりました。

今回は支部発足に伴い設置された委員会の１つ、親睦委員会の主催による花見交流会でもありました。

運営委員のおひとりの桜を想う俳句をきっかけに、何をすべきか悩んでいた親睦委員会は急遽「花見交流会」の開催を決定した。委員長の呼び掛けに全親睦委員のうち「暇人３人」、じゃなかった「精鋭３人」が某日某所に集結し委員長と共に協議をおこなった。コーヒーとお菓子を食べながら花見以外の話で盛り上がりつつ４人は「日時」、「場所」、「料金」などを決めていった。「人数」決める段になり去年の花見が 37 名だったことから、「じゃ、40 人ぐらいにしときましょうか」とかる一く決定した。これが後で大変な事になることも知らずに・・・。
申し込み期限を 3/31 とし申し込み先を支部 HP へ（このことを事前に知らされてなかった担当の支部 IT 部長は椅子からこけそうになったらしい）とした告知文をメールで支部内に流し着々と準備を進めていった。中でも何故かしら異常に張り切った副委員長は「進行表」や「参加票」などを勝手に作り始め他の委員をあきれさせた。3/30 に再び「暇人」いや「精鋭」達は店の下見と称し「楽しいランチタイム」を過ごす為、集結したのだが当の店は貸切予約が入っており、ちょっと覗いただけで、さっさと他の店に移動し食事を楽しんだのだった。そして申し込み期限の 3/31 を迎えた。
その時点で申し込み数は定員の半分にも達していなかった。「暇人」もとい「精鋭」達は慌てた、店は貸切で申し込んでいる。35 人に満たなければ赤字だ！全親睦委員達は他の運

営委員にもお願いして必死の集客作戦に打って出た。ほとんど「趣味の世界」の物作りに励む副委員長を除いて。
努力の甲斐あって、前日になり、なんとか参加者確保に成功し、当日を迎えた。

準備のため開始時間の少し前に店に到着した親睦委員達は中を見て愕然とした。席次番号付参加票を区分けして引いてもらい、番号で一般参加者の間に運営委員を配置しようと考えていたのだが、こちらの計画とは違うテーブルセッティングになっている。ランチすることに心奪われ、お店との打ち合わせを十分にしなかったせいだ。急遽、対応策を検討するがもう時間がない。運営委員の皆さんの積極的対応に期待し、区分けせず配布することに。後は野となれ山となれだー。
定刻が近づき徐々に参加者の方々が集まってきた。親睦委員はじめ支部長も参加者の対応に追われる中、副委員長は頭に三角錐の提灯帽子をのせ入り口付近をうろうろ。
参加者が怪訝そうに見ながら店内に入っていく。来てはいけないところに来てしまったのではなかろうかと内心思ったことだろう。しかし、もう手遅れだ。
時間となり、花見交流会がスタートした。
親睦委員のひとり、ビジュアルで選ばれた小林さんが司会だ。
開会の挨拶の後、境支部長の乾杯で始まった交流会は我々の予想を超え、開始早々に皆さんの会話が盛り上がり大盛況となった。
参加者が受付でもらった参加票に「今、大切にしている事やモノを表す漢字」を一文字書くことで話のきっかけ作りになったのも良かったのだろう、初対面の一般参加者の方同士でも話が弾んでいたようだ。また、去年のコーチ・フォーラムのダイジェスト版ビデオも会場のモニターに上映された。話に夢中で誰も見てないと思ったら懐かしく見ておられる方もいらっしゃったのだった。

親睦委員会としては、途中で場を盛り上げるための「テーブル対抗ストッキングくぐりゲーム」を準備していたが、その必要も無いほど皆さんの会話が続いており、結局やらずじまいとなってしまった。しかたがないので 終了間際にくじ引き抽選会を決行した。
女性親睦委員手作りのキャンディのレイなど、ゲームの賞品として用意してあったものを
参加票の番号をくじで抽選しプレゼントしたのであった。

抽選会も終わり閉会の時間となった。
あっという間に時間が過ぎて、とても 2 時間経ったとは思えないほど短く感じられた。
最後に主催の親睦委員会委員長の江浦さんがお礼の言葉と閉会の挨拶をし、副支部長の桑原さんの一本締めでお開きとなったのであった。

終わっても半分くらいの方がなごり惜しそうにまだ話をして居られたが、店が 21：30 から一般向けに再開店するので、呼びかけて店外へ出てもらった。
出口ではお土産代わりの飴が一本ずつ配られたのを皆さん喜んでもらわれていた。
また、参加票は邪魔になるだろうと思い回収していたが、中には記念にもって帰られている人もいて、作った副委員長は思わずニヤついていたのだった。
店外に出てみるとまだ大勢の人が狭い道の両側で話し込んでおられ、楽しい時間を過ごされたのだろうと思うと嬉しかった。
その後、近くの店で２次会があり、２０名ほどの方が参加され、０時ちょっと前ぐらいまで花見会の余韻を楽しんでおられたのであった。